

## サテライト会場「space」展覧会告知

十和田市現代美術館 サテライト会場「space」  
2024 年度 展覧会のご案内

目 [mé] 《space》 撮影：小山田邦哉

十和田市現代美術館では 2022 年度より、アーティスト目[mé]による空き家を展示室へと改装した作品「space」を、美術館のサテライト会場として運営しています。ホワイトキューブの展示室が突如まちなかの建物の 2 階部分に出現したかのような「space」を拠点に、若手アーティストによる実験的な表現を紹介しています。

サテライト会場として活用してから 3 年目となる 2024 年度は、前半にパフォーマンスやアニメーション作家としても活動する尾角典子の個展 [会期：7 月 6 日(土) - 9 月 8 日(日)]、後半は絵画やコラージュ、写真などを用いたインスタレーション作品を制作する堀内悠希の個展 [会期：9 月 21 日(土) - 12 月 15 日(日)] を開催します。

尾角は、space という作品である展示室に出入りする鑑賞者と、体内に侵入し活動するウイルスとの共通点に注目しました。パンデミックを経て意識されようになったウイルスという存在を新たな視点から表しながら、近年の作品で扱ってきた人間とテクノロジーの関係をテーマにした新作を発表します。堀内は、過去の個人的な記憶の中の景観や感覚を、別の現象として再解釈して表現することで、ありえそうでありえない景色を space に生み出します。それぞれの方法で、目 [mé] が生み出した space という空間を、別の世界への入り口に変化させます。

※ 各展示の詳細は、後日ご案内をお送りいたします。

**前半：尾角典子 展 会期：2024 年 7 月 6 日(土) - 9 月 8 日(日)**

**後半：堀内悠希 展 会期：2023 年 9 月 21 日(土) - 12 月 15 日(日)**

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 [press@towadaartcenter.com](mailto:press@towadaartcenter.com) [www.towadaartcenter.com](http://www.towadaartcenter.com)

## 尾角典子 展 会期：2024年7月6日（土）－9月8日（日）

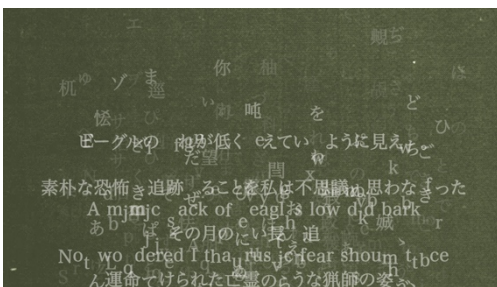
[展示の詳細は2023年6月頃案内予定](#)

### 尾角 典子（おかく・のりこ）

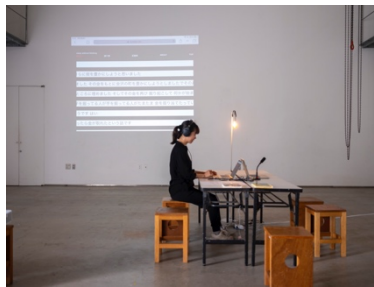


撮影：Mari Uruta

1979年京都生まれ、ロンドンと京都を拠点に活動。チェルシー芸術大学でファインアートメディア学士、英国王立芸術大学にてアニメーション修士を取得。コラージュを用いたアニメーションを基軸にパフォーマンス、インスタレーション、VRなど異なる媒体を使用し、移りゆく事物から現れる多面性を探る。主な展示やパフォーマンスに「THAT LONG MOONLESS CHASE / その長い月のない追跡」(金沢21世紀美術館、2023)、「VOCA展2019」(上野の森美術館、東京)、「The Interpreter」(QUAD Gallery、イギリス、2015)など。主な受賞歴に、オーバーハウゼン国際短編映画祭インターナショナルコンペティション部門へのノミネーション(2016)、オタワ・アニメーション国際映画祭最優秀ミュージック・ビデオ賞受賞(2011)など。 <https://norikookaku.com>



《That Long Moonless Chase / その長い月のない追跡》2023年



《That Long Moonless Chase / その長い月のない追跡》2023年 撮影：Yuji Oku



《規則的な不規則 / Regular Irregularity》2021年

## 堀内悠希 展 会期：2023年9月21日（土）－12月15日（日）

[展示の詳細は2023年8月頃案内予定](#)

### 堀内 悠希（ほりうち・ゆうき）



撮影：Hisako Kawakami

1990年奈良県生まれ、ロンドンを拠点に活動。映像、セラミック、絵画、インスタレーションなど様々な手法を用いて、時間や意味の重なりや往来、偶然の連鎖について既存の知覚概念と異なる視点から表現する。2015年東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。2021年よりポーラ美術振興財団と吉野石膏美術振興財団の助成を受け、ロンドン在住。2023年スレード美術学校（ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン）修士課程終了。主な個展に、「カンタムテレポーテーション」(駒込倉庫、東京、2023)、「Parallel World」(NOHGA HOTEL Ueno、東京、2020)、グループ展に「See the Light」(HAGIWARA PROJECTS、東京、2022)、ALTERNATIVE KYOTO「余の光/Light of My World」(旧銀鈴ビル、京都、2021)、「版行動 映えることができない」(東京都美術館、2021)など。 <https://yuukihoriuchi.com>



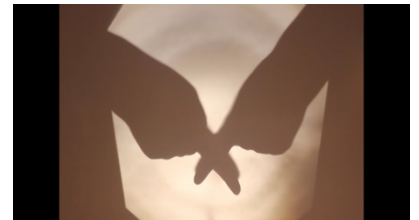
《Untitled》2024年



個展「カンタム テレポーテーション」  
展示風景 2023年 撮影：末長真



《Candle Flames》2023年



《Shadow of ABC》2021年

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 [press@towadaartcenter.com](mailto:press@towadaartcenter.com) [www.towadaartcenter.com](http://www.towadaartcenter.com)

## 【 space 概要 】

開館時間：10：00 – 17：00 / 休館日：月曜日（祝日の場合はその翌日）※十和田市現代美術館の休館日に準じます。

住所：青森県十和田市西三番町 18-20 / 観覧料：無料 / 主催：十和田市現代美術館

## 《space》制作：目 [mé]



2013年活動を始める。アーティスト 荒神明香、ディレクター 南川憲二、インストーラー 増井宏文を中心とする現代アートチーム。個々の技術や適性を活かすチーム・クリエイションのもと、特定の手法やジャンルにこだわらず展示空間や観客を含めた状況/導線を重視し、果てしなく不確かな現実世界を私たちの実感に引き寄せようとする作品を展開している。近年の活動に「SKY GALLERY EXHIBITION SERIES vol.5 『目 [mé]』」（SKY GALLERY、東京、2023）、さいたま国際芸術祭 2023 ディレクターなど。十和田市現代美術館で2020年7月から2022年5月まで開催したArts Towada十周年記念「インター + プレイ」展で、まちなかの建物を展示室に改装した作品《space》を制作。

## 十和田市現代美術館

2008年に東北初の現代美術館として開館。草間彌生、奈良美智、塩田千春、ロン・ミュエクなど世界の第一線で活躍するアーティストらの作品を常設展示しています。美術館の中だけでなく、周辺には公園のようなアート広場があり、子どもから大人まで散策しながら魅力あるアートとのふれあいを楽しむことができます。

所在地：青森県十和田市西二番町 10-9

TEL：0176-20-1127 FAX：0176-20-1138 web：www.towadaartcenter.com



## 【 広報用図版 】

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、申込みフォームの項目をご記入の上、本用紙を FAX または E-mail にてお送りください。

E-mail：press@towadaartcenter.com / FAX：0176-20-1138

TEL：0176-20-1127 / 住所：034-0082 青森県十和田市西二番町 10-9

十和田市現代美術館 広報 大谷 行



媒体名

rts

媒体ジャンル 新聞/雑誌/美術誌/テレビ/WEB/その他 ( )

御社名

御担当者名

所在地 〒

電話

メールアドレス

## 【 画像ご使用に際して 】

- クレジットは全て明記してください。
- トリミングはご遠慮ください。
- キャプション等の文字が画像に被らないよう、レイアウトにご配慮ください。
- ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で美術館までご確認ください。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com